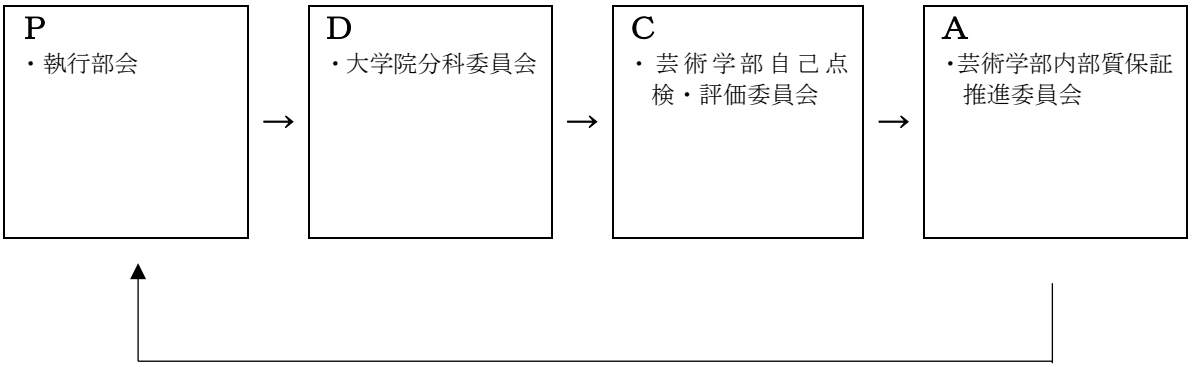
令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　大学院芸術学研究科

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。

＜評価の視点＞

・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

教学について，大学院教学戦略ワーキング・グループを中心として，各種教学情報を分析し，研究科長への答申，各種所管委員会での検討，改善策の実施及び芸術学部自己点検・評価委員会にて点検・評価，芸術学部内部質保証推進委員会での管理という「日本大学芸術学部及び大学院芸術学研究科内部質保証体制」に基づく，一連のＰＤＣＡサイクルを組織的に運用している。

教育活動の点検・評価については，学部と同様に年に２回，大学院生による授業評価アンケート及び修了生へのインタビュー調査などを実施し，学生・修了生の意見を積極的に取り入れた改善への取組を行っている。また，学外者による教育活動の点検・評価を導入し，客観的指標に基づく改善を速やかに実施する体制を整備している。

執行部会で大学運営に係わる教育・研究・管理関連の様々な案件を検討し，その後各種委員会や大学院分科委員会にて実行に移す。実行された事項について，毎年芸術学部自己点検・評価委員会で確認・検討・評価し，その後芸術学部内部質保証推進委員会において，次年度や未来に向けた改善計画等を立案し今後につなげていく流れとなっている。

令和６年度大学評価（認証評価）結果において，芸術学研究科博士前期課程の研究指導計画

の研究方法の明示が希薄であると指摘されたため，研究指導内容の記載をより充実させるよう大学院専攻主任会議が中心となり，現行の研究指導計画の確認を行い，令和７年度入学者用の大学院要覧及び芸術学部ホームページにその内容の掲載を行った。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

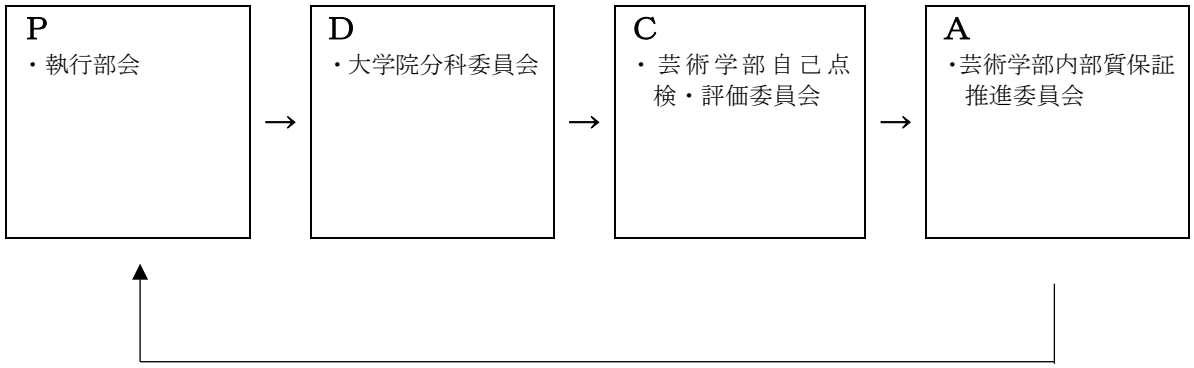
【提言（改善課題）】

芸術学研究科博士前期課程の研究指導計画について，令和６年度大学評価（認証評価）結果において，研究方法の明示が希薄であると指摘されたため，研究指導内容の記載をより充実させるよう改善が望まれている。この改善に当たっては，内部質保証体制を機能させ，改善していくことが求められる。例えば，芸術学部内部質保証推進委員会の下，既存の大学院委員会及び大学院専攻主任会議が中心となり，現行の研究指導計画の点検・評価を行い，研究方法や指導方針を具体的かつ明確に示す内容へと改善するよう求められる。

芸術学研究科博士前期課程の研究指導計画について，研究方法の明示が希薄であると指摘があったが既に解決済みである。執行部（大学院担当）の提言に基づき，所管部署の教務課で，より内容の充実した草案を作成し，専攻主任を通して各専攻内で確認を行い，芸術学部内部質保証推進委員会において確認・検討を行った。そして修正版の研究指導計画を大学院要覧及び大学院ホームページに掲載した。

基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

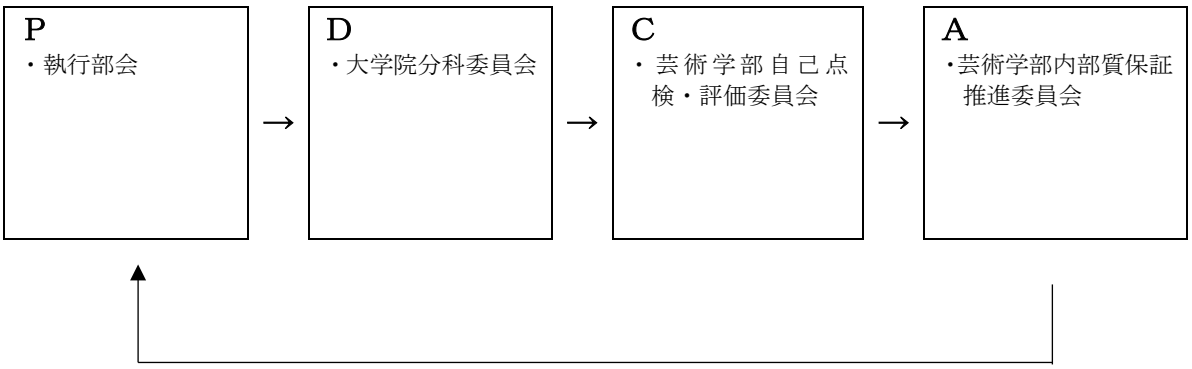
大学院専攻の改組や教育研究組織の適切性の見直しについては，執行部会を中心に提起され，大学院教学戦略ワーキング・グループが各種データを検討・分析する。その結果を大学院委員会等で実施可能か検討し，具体化させた上で，大学院分科委員会での実行，芸術学部自己点検・評価委員会による点検・評価，及び芸術学部内部質保証推進委員会による改善・計画へとつなげるサイクルとなっている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

⑸　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

教育課程及びその内容，教育方法については，学内においては学部と同様に執行部会で点検・評価の基準等を定め，学生からの意見を取り入れて教育の質の向上を図るために，ＦＤ委員会において質問項目の検討を行った上で，前期と後期それぞれ１回，大学院学生による授業評価アンケートを行い，大学院分科委員会で実施報告，芸術学部自己点検・評価委員会により点検・評価を行い，芸術学部内部質保証推進委員会に改善・計画を行うサイクルを構築している。学外者からの評価においては，令和５年度からライオン企画株式会社と「日本大学芸術学部とライオン企画株式会社との連携協力に関する協定」を結び，年に１回，教育活動の点検評価を実施した。令和７年度に関しては，学部と同様に練馬区生涯学習センターに点検・評価を依頼した。実施した結果については，芸術学部自己点検・評価委員会が点検・評価を行い，芸術学部内部質保証推進委員会で改善・計画し，実務として各種委員会で改善を図る体制を構築している。

⑹　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

時代に即した学びができる大学院へと進化し,学部内進学者を含めた多くの優秀な学生を獲得し選ばれる大学院としていくため，令和２年度から大学院教学戦略ワーキング・グループを中心に現状のカリキュラムや「教育研究上の目的」,「三つの方針」等の確認を行った結果，令和８年度入学者から学則を変更することとなった。主な変更内容は，以下のとおりである。

(1)　ＭＦＡ（Master of Fine Art）学位の新設

(2)　２年間継続履修としている主指導教員による指導科目の単年度開講科目への変更

(3)　前期課程における講義科目の半期化

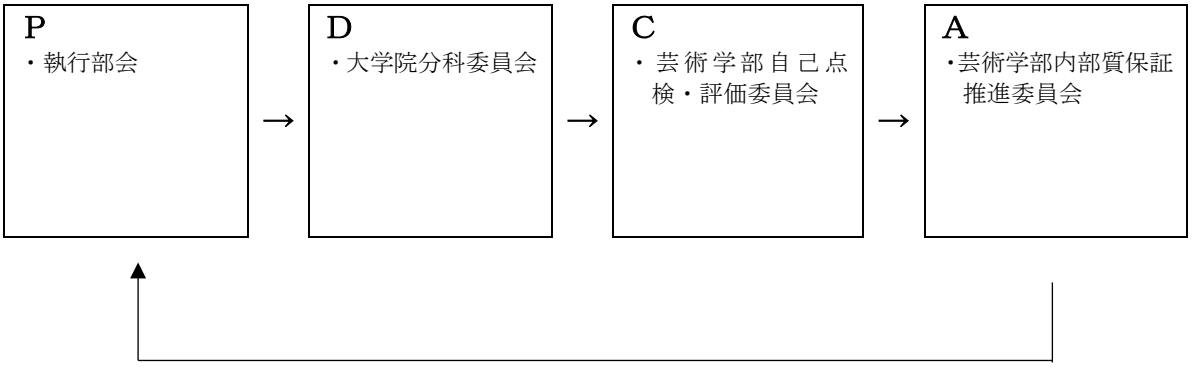
特にＭＦＡ学位の必要性が社会的に高まることを想定し，日本国内の芸術系大学での事例を収集したり,米国のＭＦＡプログラムを修了した本研究科修了生にインタビューするなどして,ＭＦＡ学位プログラム内容の検討を重ね，実施に至った。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき,【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

学生の受け入れに関わる事項については，執行部会を中心に提起され，大学院教学戦略ワーキング・グループが中心となってデータ収集・分析を行い，大学院委員会及び大学院専攻主任会議において検討を行い大学院分科委員会で決定している。また，芸術学部自己点検・評価委員会が点検・評価を行い，芸術学部内部質保証推進委員会において改善・計画し，統括的管理をする仕組みを構築している。

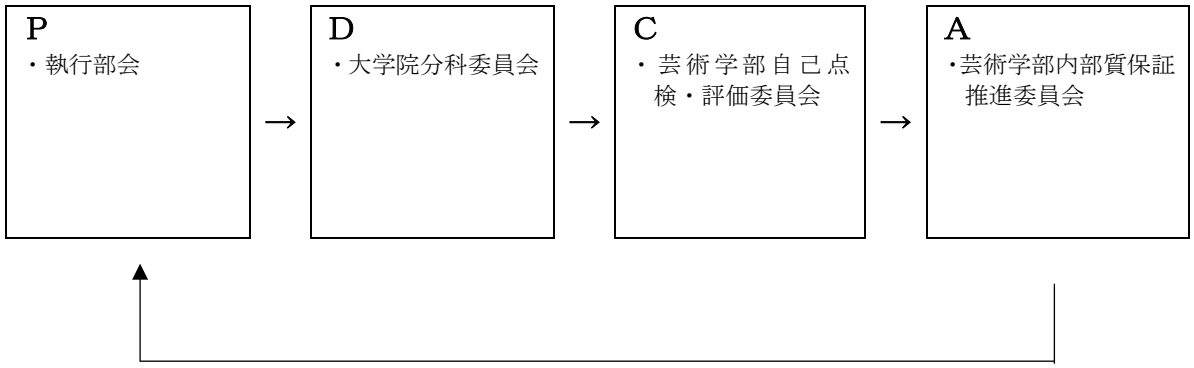
令和６年度入学試験から外国人留学生入試，一般入試及び社会人入試において，選抜方法を１次試験・２次試験の２段階試験方式に変更したところ，令和６年度入学試験では志願者数が 473 名と前年比 3.4 倍近くの増加となり，令和７年度入学試験では令和６年度に比べると 141 名減となったが，試験方式変更前と比較すると大幅に増加している。今後は，学部と大学院の連携を強めて学部の低学年の内から大学院進学を意識させ，また魅力のある大学院の教育内容を見直していくことが必要であると考えられる。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー&ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㉘　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

教員組織に関わる事項については，総じて芸術学研究科の教員組織に関わる事項については，執行部会で検討し，その後各種委員会や教授会・大学院分科委員会において実行に移す。実行された事項について，毎年，芸術学部自己点検・評価委員会で確認・検討・評価し，その後芸術学部内部質保証推進委員会で，次年度や未来に向けた改善計画等を立案して今後に繋げていく流れとなっている。

細部については，執行部で各専攻の教育・組織運用状況を把握し，問題点や今後の在り方などの確認を行い，各所管委員会において検討，審議等を行っている。

教員の教育･研究実績については，全教員に対して科学技術振興機構が運営する research map に研究成果を登録するよう，周知徹底を図っている。大学院専攻主任会議において，登録された研究実績を裏付けとし，大学院担当教員としての修士及び博士指導教授の資格を得るための「大学院芸術学研究科博士前期・博士後期課程の教員資格認定基準」に基づき，研究業績審査を実施している。

また，教員昇格についても，昇格基準を満たした教員の researchmap 登録研究業績を基に業績一覧を作成，教員人事委員会に上程後，学内及び学外審査委員より代表業績が昇格基準に照らして，ふさわしいか否かにつき審査報告書の提出をもって判断する昇格審査を実施している。

これは，大学院の科目を担当するには准教授以上であることという条件を設けていることから，大学院担当教員になるためには，教員昇格審査と密接な関係があり，これらを審査するツールとして全世界からアクセス・評価される researchmap への情報入力を，毎年度定期的に更

新する必要があり，常に研究実績等の評価が行われていると捉える。
　学部内での取組としては，教育面における評価として，毎年実施している授業評価アンケートの結果，評価の高い教員やＩＣＴの活用を含む学部の教育方針に合致した優れた授業実践等を行っている教員については ，学部として表彰を行い，基準に満たない教員に対しては面談を行い改善に向けて指導を行っている。また，引き続き，大学院固有のＦＤ活動を行い学部ＦＤでは十分に対応できない，大学院教育の特性に即した質保証・改善に努めていく。

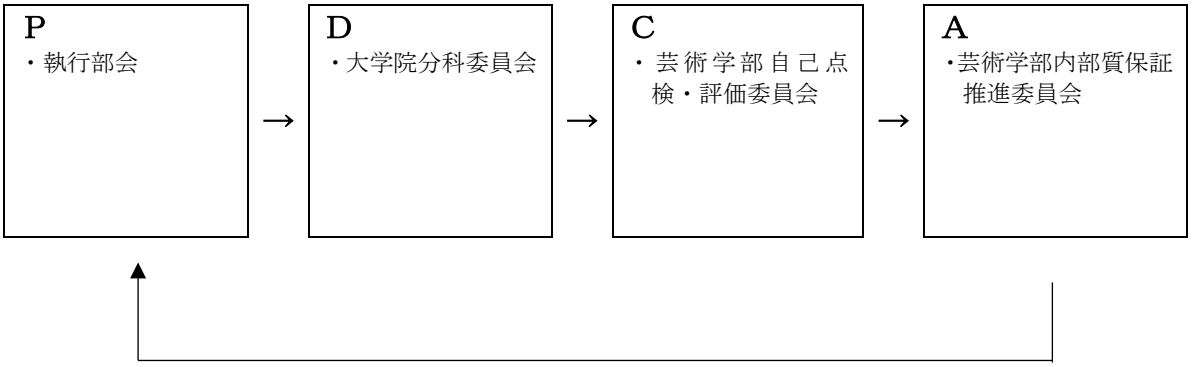
3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】
　研究科全体としての共通方針や基本的な業務マニュアルがないため，専攻間での指導内容や業務水準に差が生じる可能性があることは課題であり，改善が求められる。
その他は，学部を参照いただきたい。

　芸術学研究科では，研究科全体としての共通方針や基本的な業務マニュアルがないため，専攻間での指導内容や業務水準に差が生じる可能性があり，改善が求められる旨の改善課題に対し，令和６年度大学評価（認証評価）結果において「博士前期課程の研究指導計画について，研究方法の明示が希薄である」と指摘があったことから，まずは各専攻における学生指導の流れを確認し，令和７年度入学者用の大学院要覧及び芸術学部ホームページにその内容の掲載することとした。今後は，研究科として最低限共有すべき指導方針及び業務運用に関する共通事項を整理する。あわせて，各所管委員会を中心に定期的な点検・見直しを実施し，研究科全体として指導内容及び業務水準の均質化と質の向上を図る。

基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

執行部会で，学生支援の様々な案件を検討し，その後各種委員会や大学院分科委員会で実行に移す。実行された事項について，毎年，芸術学部自己点検・評価委員会で確認・検討・評価し，その後芸術学部内部質保証推進委員会において，次年度や未来に向けた改善計画等を立案して今後につなげていく流れとなっている。

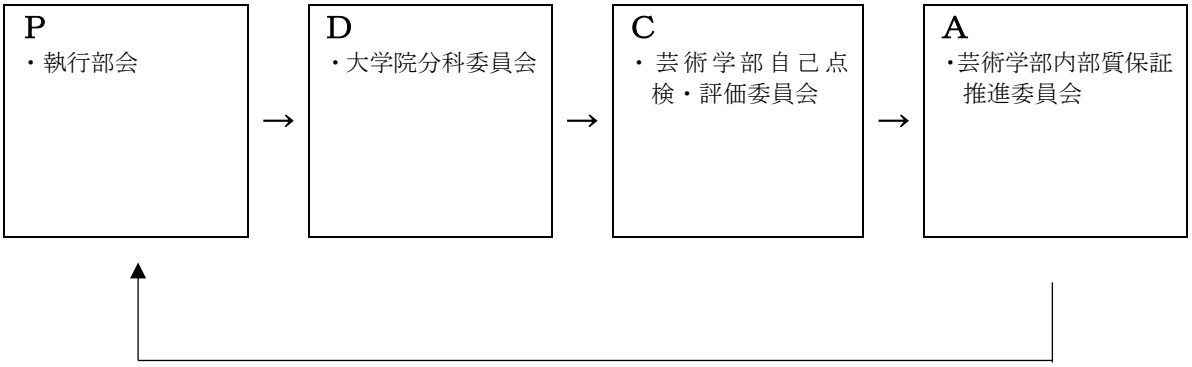
令和７年度は，「購買部,食堂等の運営業者選定に係る取扱要項」の制定に伴う計画として，学生生活委員会において学生及び学科にアンケートを実施した。その結果を受け，年度中に学生食堂の券売機を増設し，令和８年度の学生応援ランチ増食を決定した。今後は，芸術学部自己点検・評価委員会の評価・確認及び芸術学部内部質保証推進委員会の改善・検討を受け，次年度は改めて学生食堂及び購買部の運営業者を公募で選定する。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準８ 教育研究等環境

１　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑭　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

執行部会で研究等環境の案件を検討し，その後各種委員会や大学院分科委員会において実行に移す。実行された事項について，毎年芸術学部自己点検・評価委員会で確認・検討・評価し，その後芸術学部内部質保証推進委員会で次年度や未来に向けた改善計画等を立案し，今後につなげていく流れとなっている。

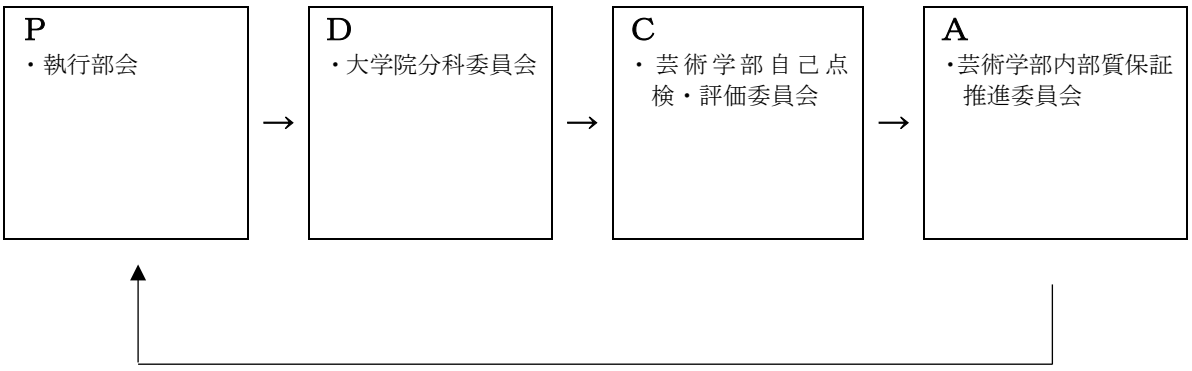
芸術研究所運営委員会において，学部研究費（個人・共同）及び本学部独自の川野希典研究費，杉浦仙之助・うめ研究費等に係わる諸事項の情報等を共有し確認している。研究事務課において，複数名で研究遂行のために提出書類の精査・検証を行い，芸術学部自己点検・評価委員会が点検・評価を実施し，サイクルを回している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準９ 社会連携・社会貢献

１　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

芸術学部の社会連携・社会貢献に関わる事項について，全体的な流れとして執行部会で社会連携・社会貢献に関わる案件を検討し，方向性を決める。その後各種委員会や教授会・大学院分科委員会において実行に移す。実行された事項について，毎年芸術学部自己点検・評価委員会で確認・検討・評価し，その後芸術学部内部質保証推進委員会にて，次年度や未来に向けた改善計画等を立案し今後につなげていく流れとなっている。

学生と教職員，企業や自治体との産官学連携の連携プロジェクトの実施可否の検討や学内周知を目的とし，定期的に連携企画委員会や学務委員会，学部運営協議会を開催し，精査している。社会連携・貢献に関わる連携プロジェクトの実施後については，学部運営協議会においてプロジェクトの実施内容と所感，次回実施への改善点等を報告書にまとめ，報告し実施サイクルを回すためにも検証している。その後，芸術学部自己点検・評価委員会で確認し，芸術学部内部質保証推進委員会が改善・検討を図っている。

連携プロジェクトを通して社会連携・社会貢献に携わることで，学生が学んでいる領域がどれだけ社会と密接に関わっているか，影響を与えるのかを学生自身が学ぶ場となっている。また，学生も教員も外部とのつながりを深めることで，学内ではなく社会へと意識を向け始めており，取組方法や広報活動を毎年度改善することで，参加する学生や教員も増加し，継続案件や単発案件を含め，関係する企業や自治体から新たな依頼を受け，連携プロジェクト数が年々増加している傾向にある。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし